

最優秀賞

一般建築物の部

建築主：キッコーマン株式会社
設 計：株式会社日建設計／鹿島建設株式会社
施 工：鹿島建設株式会社
所在地：野田市野田338

～環境と街の歴史を繋いでいく建築～

キッコーマン中央研究所



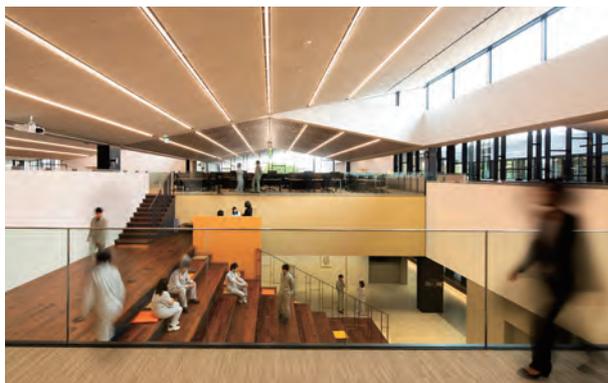
蔵や黒板塀が点在する街並みと連続した外観

千葉県野田市の地にて、江戸時代からしょうゆ醸造が行われており、1917年に8家が合同で「野田醤油株式会社」を設立、今に至ると聞き、歴史の深さを感じずにはいられない。計画地の周りには、伝統家屋や神社、黒板塀と瓦屋根の倉庫、国の登録有形文化財が点在しているなか、景観やスケール感をも考え延約1万㎡を2階建てに抑え屋根形状を切妻や片流れに工夫したことで伝統的な街並みに調和している。もちろん外壁や屋根の質感及び色合いも景観に融合している。水平的広がりを持つ2階建ての新たな研究施設は1階部を実験エリア、2階部をオープンエリアの明快なバーチカルゾーニングされた2層構成を市松状に配置された吹抜、階段による機能連携やコミュニケーションの活性化で、上下階の密接な

機能関係性、立体的な回遊性を生み出し、視線が変化し見え隠れする。不整形でありつつ一体感のあるワークプレイスの中で、研究者が働く場所を自由に選べ集中したい時やリラックスしたい時それぞれにて空間認知の選択性がある場所がうまく造られている。「市松状」的な平面で部分的に段差を使うことで選択する場所が出来てきておもしろい。吹抜けも一体感をまし研究者が快適に過ごせる空間が研究開発拠点としての場所造りを感じる。照明も色温度を時間で変化させるサーカディアン制御とし自然光を合わせてあり心までも落ち着く。

全ての考えが、地球環境への配慮に取り組み自然光や自然の風、雨水など積極的に利用し消費エネルギーが増大しがちな研究施設における環境負荷低減に感動する。

(竹江 文章)



2階のオープンスペースと1階実験エリアをつなぐ、市松状配置の吹抜



フロアの中央部にも光を導く中庭

(撮影全て：雁光舎(野田東徳))